

研究奨励交付金（若手奨励研究） 報 告 書

令和2年度採択分
令和3年5月28日作成

研究課題名（和文） 小学生の子どもをもつ保護者向けに作成した性教育パンフレットの評価
研究課題名（英文） Evaluation of sexuality education pamphlets created for parents with elementary school children

研究代表者

氏 名 道園 亜希
福岡県立大学 看護学部・助教

研究組織

氏 名	所属研究機関・部局・職	役割分担（研究実施計画に対する分担事項）
道園亜希	看護学部・看護学科・助教	パンフレット作成、計画立案、調査、考察等研究全般
石村美由紀	看護学部・看護学科・准教授	パンフレット作成、調査、考察等全般
佐藤繭子	看護学部・看護学科・助教	パンフレット作成、調査、考察等全般

研究奨励交付金（配分額）

72,840円

研究成果の概要（当該研究期間のまとめ、できるだけ分かりやすく記述すること。）

研究者らは、平成28年度本学研究奨励交付金（プロジェクト研究）を受け、「小・中学生を持つ保護者への家庭性教育支援に関する研究―保護者による家庭での性教育の実態調査より―」を実施した。これらの結果を踏まえ、今回は小学生とその保護者らを対象に、家庭で性教育を実施するために活用できる性教育パンフレット「性 なぜなぜどうして？13のQ&A」をA市教育委員会と共に作成した。令和2～3年度にかけて、このパンフレットを活用した講座実施、パンフレット内容の評価予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため学校行事がすべて中止となり、実施することができなかった。今年度、A市教育委員会と検討を重ね、オンラインでの開催を検討中である。

研究分野／キーワード

小学生、保護者、性教育、パンフレット

1. 研究開始当初の背景

研究者らは、平成28年度本学研究奨励交付金（プロジェクト研究）を受け、「小・中学生を持つ保護者への家庭性教育支援に関する研究―保護者による家庭での性教育の実態調査より―」を実施した。この研究はA市教育委員会の協力のもと実施したものである。研究結果より、小学生・中学生の保護者らは、子どもから性に関する質問を受けた際、わかりやすい言葉で真実を答えたというものが多かったが、LGBTや性交については嘘をついたりごまかしたりする傾向にあった。さらに、子どもから性に関する質問を受けた際、きちんと答える自信があると回答したものは小学生保護者で6割以下、中学生保護者で5割以下であった。子どもの問いに真摯に対応しながらも、伝え方・対応に苦慮している状況が窺えた。また、小学生・中学生の保護者とも、8割以上が家庭での性教育の必要性を感じており、家庭で性教育を実施するための情報提供を望んでいる現状が明らかとなった。

これらの結果を踏まえ、今回は小学生とその保護者らを対象に、家庭で性教育を実施するために活用できる性教育パンフレット「性 なぜなぜどうして？13のQ&A」をA市教育委員会と共に作成することとした。このパンフレットには上記研究の結果を反映し、小学生の子ども達から実際に質問される確率が高い13項目（Q1男の子～大人のからだになるって？～、Q2なぜ陰けいは硬くなるの？、Q3射精って何？、Q4男の子の性器はどう洗うの？、Q5女の子～大人のからだになるって？～、Q6月経ってどうして起こるの？、Q7女の子の性器はどう洗うの？、Q8プライベートゾーンって何？、Q9自分のからだを守るにはどうしたらいい？、Q10人を好きになるってどういうこと？、Q11赤ちゃんはどうやってできるの？、Q12赤ちゃんは子宮の中でどう過ごしているの？、Q13赤ちゃんはどこから生まれてくるの？）をあげ、項目毎に子どもに分かりやすい説明と優しいイラストをつけた。さらに、性教育とはどのようなものか、そして子どもからの質問にどのように答えたらよいかというアドバイスを掲載している。令和2年度前期中にパンフレットの完成を目指し、後期には小学生の子どもとその保護者を対象に本パンフレットを活用しながら助産師が講座を実施、さらに講座参加者からのフィードバックをもとにパンフレット内容の評価を実施することとした。

2. 研究の目的

- ① 小学生の子どもとその保護者向けに作成した性教育パンフレット「性 なぜなぜどうして？13のQ&A」を活用した講座を実施
- ② 講座後、家庭でどのような性に関する会話があったか、どのようにパンフレットを活用したか調査を行い、家庭での性教育におけるパンフレットの有効性を検討する。

3. 研究の方法

令和2年度

- 6～9月 A市教育委員会と共に、パンフレットの最終打ち合わせを行う。
- 9月 パンフレットを印刷会社に依頼し、印刷する。
- 10月 福岡県立大学研究倫理委員会の承認を得る。
- 12月 来年度の開催を視野に入れ、A市教育委員会に依頼し、A市内9つの小学校から2～3校をモデル校として選出して頂く。
- 3月 選出された小学校校長へ、研究主旨・方法等説明し、同意を得る。
校長らと講座の開催方法・場所・日時等を検討する。（授業参観後、PTA総会の日、保護者会の日等）

令和3年度

4～12月（年度内で学校側の要望に応えることができるよう計画）

- ① 学校側との会議で日程が決定し次第、小学1～6年生の保護者らへ、学校通信または学級通信を通して講座開催を周知して頂く。
- ② 講座開催当日、講座受講前に、保護者らへ研究の説明を行う。研究への協力は任意であり、協力を拒否したことで不利益が生じることはないことを十分説明する。講座前後および1カ月後に実施するアンケートの提出をもって同意を得たものとする。
- ③ 講座受講前・後に質問紙調査票を配布。
- ④ 講座終了1カ月後に、学校から児童へアンケート用紙を配布してもらい、児童から保護者へ渡しってもらう。

4. 研究の主な成果

上記研究スケジュールを予定していたが、昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、小中学校で実施することができなかった。オンラインでの開催も検討したが、まだA市や各家庭のネット環境等整っておらず実施に至ることができなかった。今年度も同様に新型コロナウイルス感染症拡大に伴い小学校での行事開催の見通しは立っていない。そのためA市側と協議し、今年度はオンライン開催を検討し、積極的に実施していきたいと考えている。完成したパンフレットは以下のようなものである。

表表紙



裏表紙



5. 主な発表論文等

なし

6. その他の研究費の獲得

なし